Panasonic

SmartArchi

SLIM PENDANT

取扱説明書

保管用

（一般屋内用）　品番 FYY54070（単体用）　FYY54071（連結中用）
FYY54072（連結右用）　FYY54073（連結左用）

・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

施工説明　**工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。**

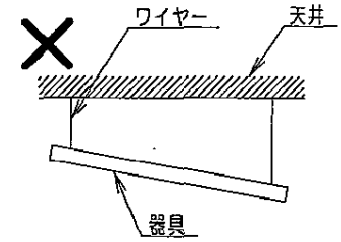
取付前のご確認事項

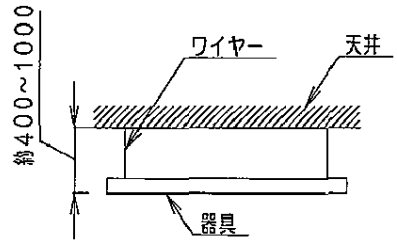
	適合吊具品番	
	FYY80000（電源線付き）	FYY80002（電源線なし）
単体取付の場合	1台	1台
N台連結取付の場合	1台	N台

安全に関するご注意

⚠警告

- 施工は、取付方法にしたがい確実に行なう。
  施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。
- 器具の改造は絶対に行わない。　感電・火災の原因となります。
- 表示された電源電圧（定格電圧±6%）・周波数以外の電源で使用しない。
  感電・火災の原因となります。
- この器具は吊下げ専用器具です。上記適合吊具および必要台数以外での取付はしない。
  落下の原因となります。
- 傾斜天井・壁面への取付はしない。落下の原因となります。
- この器具を傾斜させて取付けしない。落下の原因となります。
- 素線の切れたワイヤー、変形または折れ癖の付いたワイヤーは使用しない。
  そのまま使用すると落下の原因となります。
- ワイヤーが絡んだ状態や切れたままで使用しない。
  落下の原因となります。
- 開放廊下等、風の強い所では振れ止め処理を行なう。
  不備があると落下の原因となります。
  （振れ止め処理のワイヤー、金具は別途手配が必要です。）
- 吊下げ設定可能高さは約400mm～約1000mmです。
  これ以外の長さでワイヤー吊りをしない。落下の原因となります。
- 吊具ワイヤー長さ調整時は、手で支えながら行う。
  器具を支えずに長さ調整を行うと、落下の原因となります。
- 吊具に衝撃を加えない。衝撃が加わった場合は、異常が無いか確認する。
  そのまま使用すると、落下の原因となります。
- コード（適合吊具に付属）は、指定の位置から器具内に入れる。感電、火災の原因となります。
- 接地工事（D種接地工事）を確実に行う。感電、火災の原因となります。





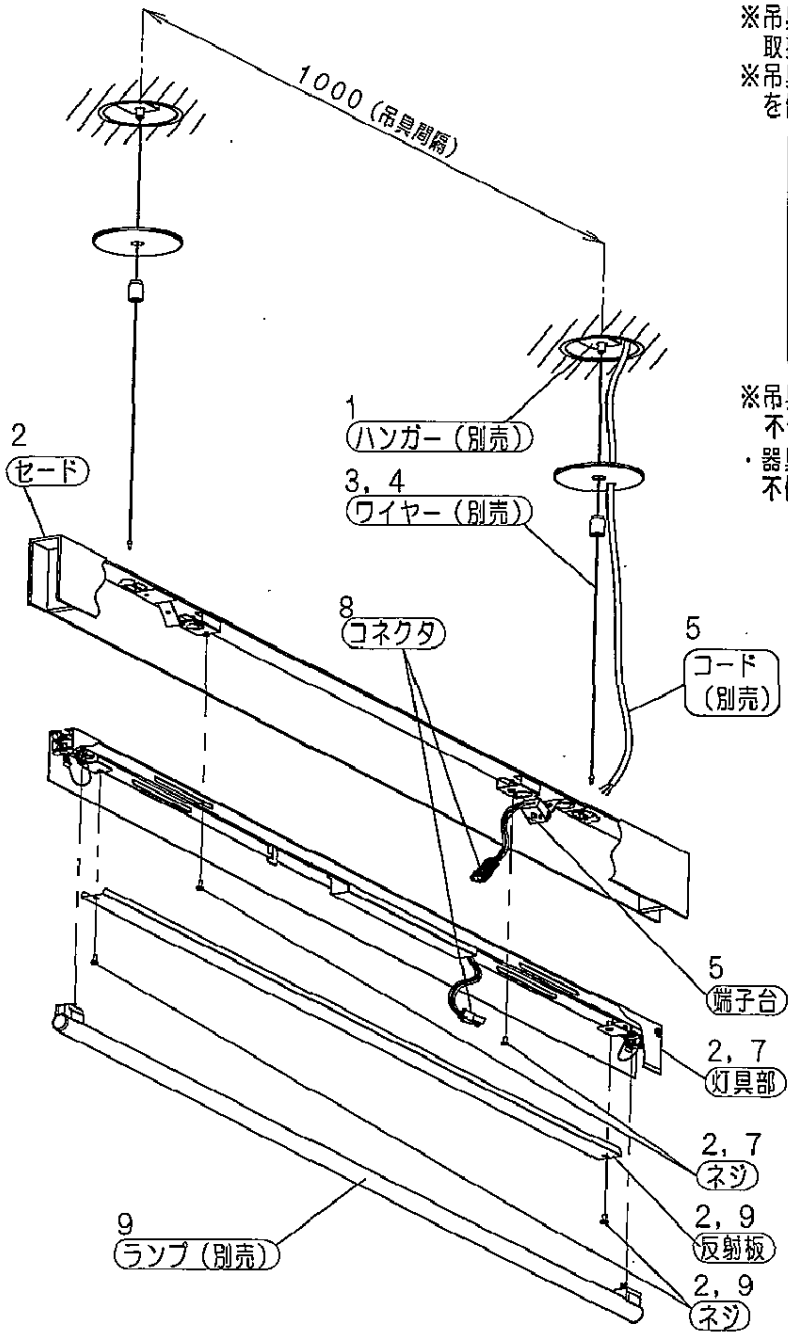
⚠注意

- 直射日光の当たる場所、湿気の多い場所、振動の強い場所、雨水のかかる場所、腐食性ガスの発生する場所では使用しないでください。
  落下・感電・火災の原因となります。
- 周囲温度は、5～35℃以外では、使用しないでください。　ちらつきや短寿命の原因となります。

各部のなまえと取付方法

⚠警告

施工は取付方法にしたがい確実に行う。施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。

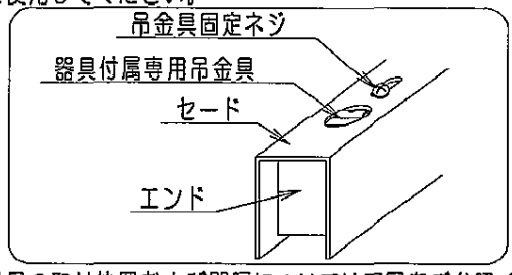


1 吊具の取付および設定

・器具質量（1台当たり　約4．2kg）に耐えるよう、吊具が確実に取付けられているか確認する。

※吊具の取付方法および注意事項については、吊具の取扱説明書を参照ください。

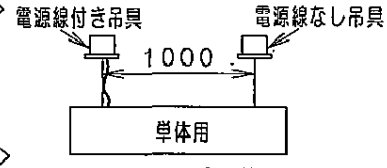
※吊具に付属の吊金具は使用しません。器具付属の専用吊金具を使用してください。



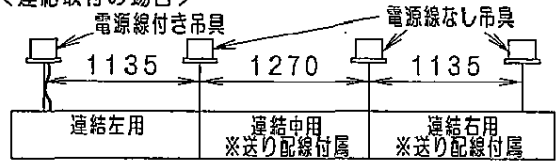
※吊具の取付位置および間隔については下図をご参照ください。**不備があると器具落下の原因となります。**

・器具の取付高さを設定し、吊具のワイヤー長さを合わせておく。**不備があると器具落下の原因となります。**

<単体取付の場合>



<連結取付の場合>



※電源線付き吊具は、連結左用器具の終端側に配置されるように取付けてください。

2 器具取付前の準備

・ネジを緩めて反射板を取り外す。

・ネジを緩めて灯具部を取り外す。
（ネジには抜け止めが付いています。）

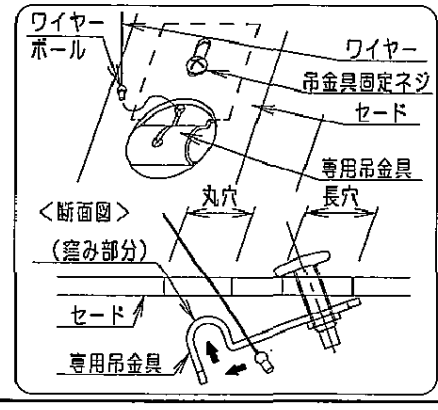
3 器具の取付（単体取付の場合）

・セード背面の吊具固定ネジを緩めて、専用吊金具を自由にする。

・吊具ワイヤー先端のワイヤーボールを専用吊金具の丸穴に通し、窪み部分にスライドさせ、引っ掛ける。

・吊金具固定ネジを締め付けて、専用吊金具を固定する。**不備があると器具落下の原因となります。**

図1



（この続きの施工手順は、次ページをご覧ください。）

各部のなまえと取付方法

3 器具の取付（つづき）（連結取付の場合）

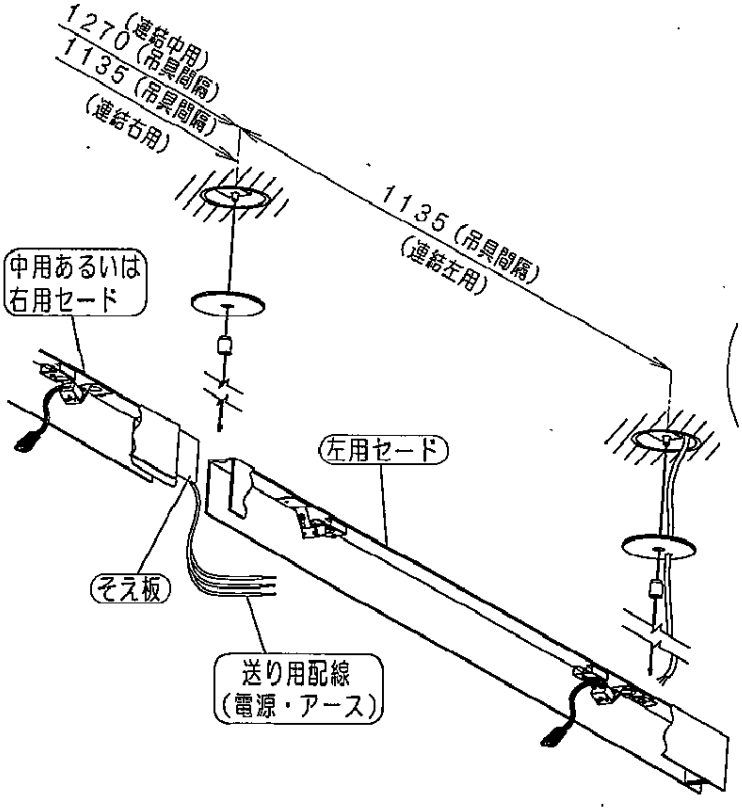


図2

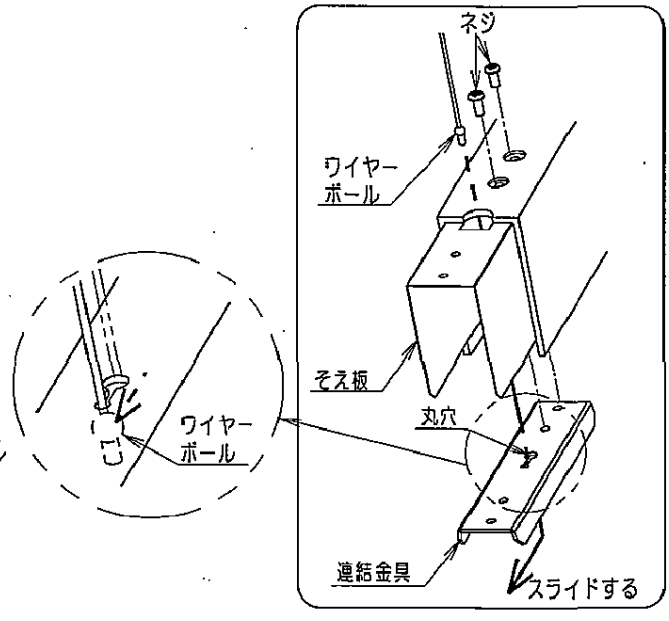
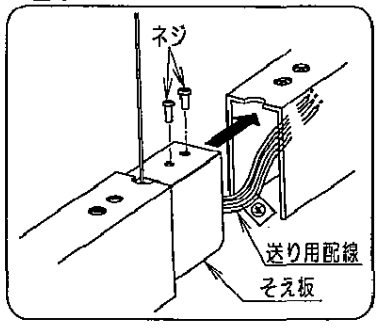


図3



・連結の場合は、各セードを次の順序で取付ける。
2連結の場合 ： （連結右用） ⇒ （連結左用）
3連結以上の場合 ： （連結右用） ⇒ （連結中用） ⇒ ・・・ ⇒ （連結左用）

<連結右用器具の取付>

・終端側は、セード背面の吊金具固定ネジを緩めて、専用吊金具を自由にする。（ネジには抜け止めが付いています。）
・吊具ワイヤー先端のワイヤーボールを、専用吊金具の丸穴に通し、窪み部分にスライドさせ、引っ掛ける。
・吊金具固定ネジを締め付けて、専用吊金具を固定する。
不備があると落下の原因となります。

} 2ページ 図1参照

・連結側は、セード背面のネジを緩めて、そえ板から連結金具を自由にし、ワイヤーボールを連結金具中央の穴にスライドして引っ掛ける。
・セード背面のネジを締め付けて、そえ板および連結金具を固定する。
不備があると落下の原因となります。

} 図2参照

<連結中用器具の取付>

・そえ板が付いてない側を、連結右用器具に差し込み、セード背面のネジで固定する。その際、連結右用器具に付属している送り用配線（IV線）を通しておく。

} 図3参照

・そえ板が付いている側は、セード背面のネジを緩めて、そえ板から連結金具を自由にし、ワイヤーボールを連結金具中央の穴にスライドして引っ掛ける。
・セード背面のネジを締め付けて、そえ板および連結金具を固定する。
不備があると落下の原因となります。

} 図2参照

<連結左用器具の取付>

・そえ板が付いてない側を、連結右用あるいは、中用器具に差し込み、セード背面のネジで固定する。
その際、連結右用あるいは、中用器具に付属している送り用配線（IV線）を通しておく。

} 図3参照

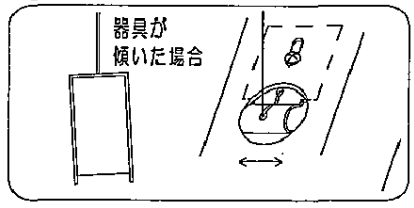
・終端側は、セード背面の吊金具固定ネジを緩めて、専用吊金具を自由にする。（ネジには抜け止めが付いています。）
・吊具ワイヤー先端のワイヤーボールを、専用吊金具の丸穴に通し、窪み部分にスライドさせ、引っ掛ける。
・吊金具固定ネジを締め付けて、専用吊金具を固定する。
不備があると落下の原因となります。

} 2ページ 図1参照

各部のなまえと取付方法

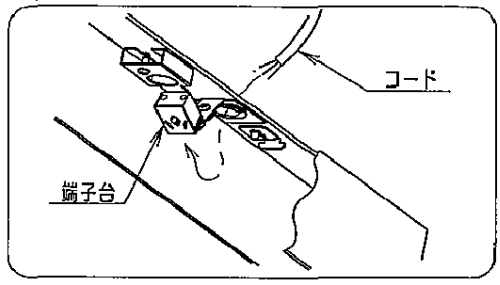
4 吊具長さの調整
・器具が水平になるように、ワイヤー長さを調整する。
（調整方法の詳細は、適合吊具の取扱説明書をご参照ください。）
・調整時は必ず器具を手で支えながら行う。
器具を支えずに調整を行うと、落下の原因となります。
・調整後、ワイヤーに異常がないか確認する。
異常があるまま使用すると、落下の原因となります。
・器具が傾く場合には、吊金具固定ネジを緩めて専用吊金具を幅方向に動かし、微調整し再度吊金具固定ネジを締め付けてください。（図４参照）
不備があると、落下の原因となります。

図4



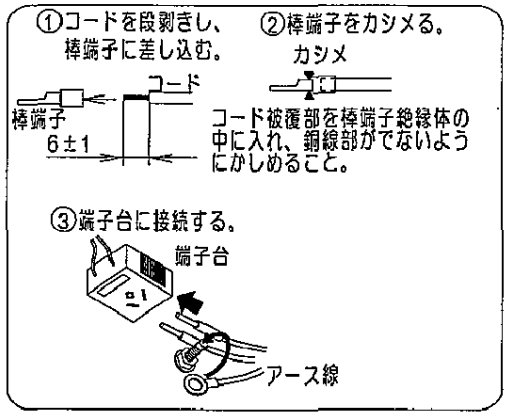
5 電源コードの接続
・吊具に付属の電源コードを、セード背面の電源穴より引き込む。（図５参照）
付属以外のコードを使用しないでください。火災・感電の原因となります。
・コード先端を段剥きし、吊具に同梱の棒端子を、白線および黒線に加締める。（図６参照）
・棒端子を端子台の速結穴に確実に差込む。（図６参照）
・アース線は、器具に付属の丸型圧着端子を確実に加締める。（図６参照）
D種（第３種）接地工事が必要。
不備があると、火災・感電の原因になります。

図5



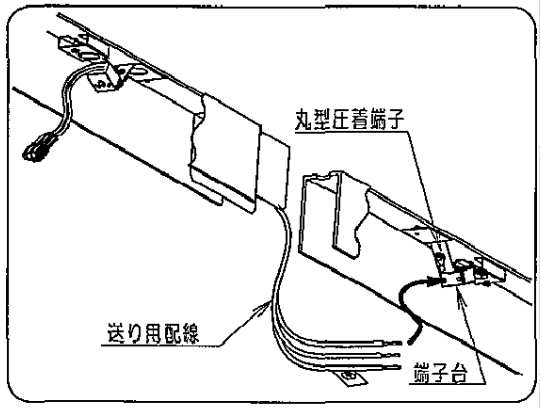
6 送り配線の接続（連結取付の場合）
・連結右用器具に付属のＩＶ線を中用、あるいは左用器具の送り用端子台および付属のアース線を近傍の丸型圧着端子に確実に接続する。（図７参照）
・同様の手順で、終端の左用器具まで接続する。
不備があると、火災・感電の原因となります。

図6



7 灯具部の取付
・灯具部の各穴から、セード側に付属のコネクタを通しておき、ネジ２箇所で確実に取付ける。（図８参照）（締付推奨トルク：１．５Ｎ・ｍ）
不備があると、落下の原因となります。

図7



8 コネクタの接続
・セード側からのコネクタと、灯具側の安定器から出ているコネクタを確実に接続し、安定器と端子台の間に押し込む。（図９、図１０参照）
不備があると不点の原因となります。

9 反射板、ランプを確実に取付ける
・ランプ取付けについては、巻末の『ランプ交換について』をご参照ください。
不備があると落下の原因となります。

図9

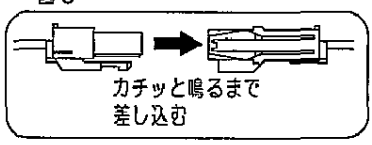


図10

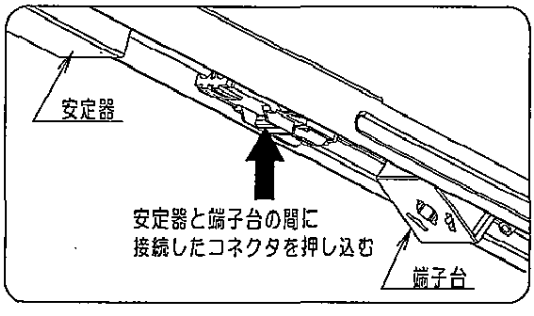
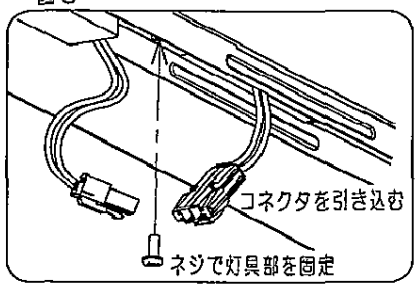


図8



取扱説明　**お客様へ、この説明書は必ず保管ください。**

・ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意

⚠警告

- 器具を改造しない。　感電・火災の原因となります。
- 万一、煙が出たり、変な臭いがするなどの異常状が発生した場合、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。
  そのままで使用すると感電・火災の原因となります。

⚠注意

- ランプ交換やお手入れの際は、必ず電源を切ってください。　感電の原因となります。
- アルカリ系洗剤は使用しないでください。　強度低下による破損の原因となります。
- 照明器具には寿命があります。設置して※１０年経つと、外観に異常がなくとも内部の劣化は進行しています。
  点検・交換してください。
  ※使用条件は周囲温度３０℃、１日１０時間点灯、年間３０００時間点灯です。
- 周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合などは寿命が短くなります。
- １年に１回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。３年に１回は工事店等の専門家による点検をお受けください。
  点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災に至る場合があります。

使用上のご注意

・ラジオ、テレビや赤外線リモコン方式の機器は照明器具から離してご使用ください。雑音が入ったり、正常に動作しない場合があります。
・同時通訳機等の誘導無線をご使用になられる場合、雑音が入る場合があります。事前に確認し対策を講じて下さい。
・初めて点灯した時、電極付近が黒くなることがありますが、しばらく点灯しておくと消えますので、異常ではありません。
・ランプには点灯に必要な金属粒を封入しています。ランプを振ると音がしますが、異常ではありません。

保証について

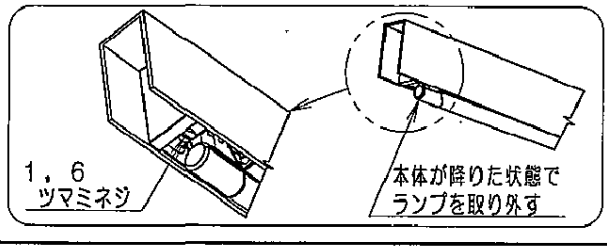
・保証について・・・・　この商品の保証期間は１年間です。但し、安定器は３年間です。
　ランプ等の消耗品は除きます。詳細は弊社カタログをご参照ください。
・保証書について・・・　保証書が必要な場合は、弊社代理店または弊社営業所へお申し出ください。
・補修用性能部品の保有期間・・・・　弊社はこの照明器具の補修性能部品（電気部品）を製造打ち切り後、６年間保有しております。
　補修性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。

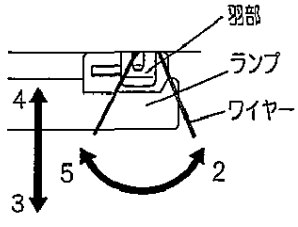
お手入れ・ランプ交換 ⚠注意（必ず電源を切って行なってください。　感電の原因となります）

・器具の清掃について　・・・・・　・水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
　シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤でふかないでください。
　変色・変質、強度低下による破損の原因となります。
・ランプ交換について　・・・・・　・本体表示にしたがって、下記の指定された部品を使用してください。

交換部品	シームレスラインランプ	FRT1250

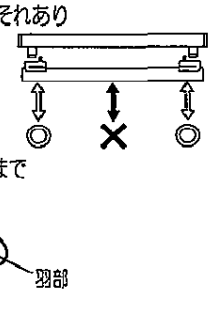
1．ツマミネジをマイナスドライバーにて緩める。（本体が斜めに降りてくる。）
2．ワイヤーを外側へ外す。
3．ランプを両端の口金部をもち手前に引いてはずす。
4．両端の口金部をもって黒線が羽部に収まるまで差し込み新しいランプを取り付ける。
5．ワイヤーを内側にたおし羽部に引掛ける。
　取付が不完全な場合、ランプの落下原因となります。
6．ツマミネジをマイナスドライバーにて確実に締める。





⚠警告

- 破損によるけがのおそれあり
  ランプの取り付け、取り外し時にはランプの中央部をもたないでください。
- 落下のおそれあり
  黒線が羽部に収まるまで差し込んでください。
- やけどのおそれあり
  点灯中や消灯直後はランプやその周りをさわらないでください。



パナソニック株式会社　施設・店舗照明ビジネスユニット　〒571－8686　大阪府門真市門真1048
お問い合わせ先　パナソニックお客様ご相談センター　0120－878－365（フリーダイヤル）　0120－878－236（FAX）

MN1107-020112
取説No. FYY54070-T2